

2019年1月22日

CDPによる気候変動対応調査において最高評価を獲得

住友化学は、このたび、気候変動対応で特に優れた活動を行っている企業として、CDPにより最高評価の「気候変動 A リスト 2018」に選定されました。

CDPは、企業や政府による温室効果ガス排出削減や水資源管理、森林保全を促進している国際NGOであり、2002年に設立されました。現在、運用資産総額87兆米ドルに上る650以上の機関投資家を代表して、世界の主要企業の気候変動対応に関する取り組みの情報を収集し、評価しています。2018年の調査において、気候変動情報を開示した約7,000社の中から、最高評価のAリストに選定されたのは、世界で126社、そのうち日本企業は20社です。

住友化学は、気候変動問題を社会が直面する重要課題の一つと捉えており、その解決に向け、総合化学企業として培ってきた技術力を生かして温室効果ガス削減などに積極的に取り組んでいます。今回の結果は、当社が「スミカ・サステナブル・ソリューション^{※1}」によって環境に配慮した製品の開発や普及を促進し、事業機会の拡大を図っていることや、SBT (Science Based Target)^{※2}の設定を通じて気候変動のリスク管理を強化していることなどが評価されたものと考えています。

住友化学グループは、「事業活動を通じて人類社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げ、これからもグループ一丸となって、気候変動問題をはじめとする社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。



※1 温暖化対策、環境負荷低減などに貢献する製品・技術を認定し、その開発や普及を促進する取り組み

<紹介ページ>

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/sdgs/sss/>

※2 パリ協定の「2℃目標」を実現するために、企業が気候科学に基づき設定した高水準な温室効果ガス削減目標

<2018年10月18日付ニュースリリース>

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/news/detail/20181018.html>

以上